

## 8. 研修生のページ

# 研修を半年終えて

育成調教技術者養成研修 第27期生

今春開講したBTC第27期育成調教技術者養成研修が早いもので6ヶ月経過しました。そこで、入講した研修生に、その間の感想や貴重な経験を語っていただきました。各研修生がホースマンとしてそれぞれの夢の実現に向けて立派に成長することを願ってやみません。

### 限りある時をひたむきに・・・

大串 碧

月と太陽が同時にぼんやりと輝く、朝なのか夜なのか分からない薄紫の空の下を厩舎へ向かって歩く。お腹が空いたと嘶く馬。外は薄暗くても厩舎は賑やかだ。すっかり当たり前になってしまった私達の日常生活。けれど、半年前はこんな風景を想像することすらできないほど、私達は馬の世界のことを何も知らなかった。ただ漠然と憧れていただけだ。

研修の日々は瞬く間に過ぎていく。覚えるべき知識、身に付けなければならぬ技術、山のような失敗の数々、少しだけ感じられた成長、小さな挫折、馬のそばにいられる喜び。そんなもの全てをひとつひとつ拾い上げて、なんとか落とさないように必死に歩いてきたら、飛び乗りすら出来なかった私も、不格好ながらも走路で併走できるまでになった。まだまだ暴走することも落馬することもあるけれど、それでもやっぱり馬に乗れるのは嬉しくて楽しくて、とても幸せなことだと思う。

9月から10月にかけての馴致実習では、普段触れることの出来ない育成馬たちを扱うことができ、彼らが一日一日成長していく過程を間近で見られるのが楽しくてしかたがなかった。1歳馬はまだ何も知らない子供で、でもちゃんと人間のことは見ていて、すごく頼りにしてきて、あぁ子育てってこんな感じか、と故郷の母を思い出した。人間も馬も一人前になるまでには、たくさんの人からたくさんのことを学び、たくさん愛情を注がれているのだ。そんな当たり前のことをドライビングの最中にふと思ったりもした。

半年が経った。残り、半分。馬具手入れをしている時、「そういえば4月に頭絡の分解とか習ったよね。懐かしい。」なんて話をして、月日の流れを実感して、少ししんみりした。同期の研修生はみんな本当に大事で、一人だったら逃げ出

したくなる時も、みんながいるから踏み止まれる。いつの間にか家族みたいに思っていた。期限付きの家族。大事な大事な私の家族だ。

半年後、どんな気持ちで最後の騎乗を迎えるのだろうか？今はまだ分からないけれど、残された限りある時間を、誠実に、ひたむきに、精一杯過ごしていきたい。そして、少しでも馬の気持ちの分かるホースマンに近付けば良い。そのために私はここにいるのだから。



軽種馬育成調教場での訓練開始  
800mトラック 6月



軽種馬育成調教場のグラス坂路馬場 7月



軽種馬育成調教場のグラス坂路馬場 7月



札幌競馬場見学 9月



乗馬大会参加・出場種目全てで入賞 7月 ゲート練習 10月



浦河競馬祭・初優勝(1・2着) 7月



北海道市場見学 10月



牧場見学 前年の有馬記念に優勝した  
歴史的な名牝と2ショット 9月